

3・22

被災者数 (3・23A)

- 死者—9,199人(宮城5,607、岩手2,773、福島762··)
- 安否不明 18,456人(宮城8,936、岩手5,028、福島4,487··)
- 避難—264,886人(宮城108,116、福島83,778、岩手44,426··)
- 建物損壊 12万8849戸(3・22午後9時現在—3・23Y)

放射能拡散—恐怖→不安→風評拡大へ

3・22

A夕「ハウレンソウ半減—大田市場取扱量、出荷停止の影響—対象外品目で返品・契約破棄、農水省調査」「原発、海側も異常値—放射性物質、安全基準の126倍—雨の影響か、首都圏上昇」「退避域の拡大否定—枝野長官、海洋調査の強化指示」「『たまらない』農家悲鳴—原発事故・出荷直前の野菜廃棄」／Y夕「海水から放射性物質—福島第1原発取水口付近、安全基準の127倍」「海水から放射性物質、漁業関係者『風評が心配』—専門家『海産物食べて問題ない』—スーパー各社、国の対応を注視」

→3・23A「3号機制御室点灯—福島第1、電力供給冷却へ前進」「東電に緊急融資へ—3大銀、まず1000億円規模」「食への拡散見極め—放射線検査めぐり混乱も、対象農産物自治体任せ—23種類規制値下回る」「漁業再開は安全確認後—茨城・千葉、イワシ・サバを調査」「燃料冷却にはなお時間—福島原発、給水系統修復急ぐ」「甲板救護物資がずらり、生存者捜し空から中止—米空母・ヘリに同乗—厳戒放射能何度も計測、自衛隊密に連携」「支援異例の手厚さ、トモダチ作戦、PRも狙う」「英世論『脱原発』じわり—新設反対28%、賛成派に迫る」／M「東日本大震災—病院・避難所死亡相次ぐ—釜石の病院、9人肺炎死」「仮設住宅建設道険し、用地・人手・資材すべて不足—国、2ヵ月3万戸要請」／Y「東電の賠償、原発事故—国も負担へ、周辺住民らに—死者9000人超す」「『海水監視』出遅れ、大気測定を優先—迅速な情報公開、不可欠—拡散予測、公表されず、文科

省対応に専門家批判」／N「夏の電力不足、最大 1500 万キロワットー東電管内、ピークの 25%分ー政府、総量規制も検討」／T「『大津波M9 想定却下』福島原発設計者ら証言ー『女川や柏崎、同じ弱点』」

3・23

各紙社説

A「放射性降下物ー長い斗いを覚悟しつつ」／「医療支援ー分かち合いの精神こそ」

M「災害弱者の救済ー孤立させない支援を」／「センバツ開幕ー被災地の思いを胸に」

Y「つなぎ法案ー協調維持へバラマキ撤回急げ」／「みずほトラブルー復旧と再発防止に万全を期せ」

N「被災地の企業支援をいち早く全力で」／「原発情報、海外の不信解け」

T「農産物被害ー放射性物質監視強めよ」／「リビア空爆ー戦闘長期化を懸念する」

H「原発事故と農産物ー正確な情報が不安を抑える」

3・23

被災者数 (3・24A、但し負傷者と建物損壊は警察庁調べ3・24Y)

○死亡 9,523 人 (宮城 5,714、岩手 2,939、福島 812··)

○安否不明 18,834 人 (宮城 8,936、岩手 4,974、福島 4,920··)

○避難 257,935 人 (宮城 100,835、福島 83,778、岩手 44,271··)

○負傷 2,755 人 (宮城 1,030、茨城 662、福島 220··)

○建物損壊 13 万 5000 戸 (茨城 4 万 5666、栃木 3 万 142、群馬 1 万 3206··)

震災被害最大 25 兆円の試算と放射能汚染の公表

←・23「30 キロ圏外被曝予測」発表ー原子力安全委員会、福島第 1 原発被災に伴う住宅の被曝量や放射性物質が降る範囲を S P E E D I (緊急時迅速放射能影響予測) システムで試算、その結果を始めて公表ー原発から半

径 30 キロの範囲外でも事故後の 3・12 から 3・24 までずっと屋外に居た場合、大気中に漂う放射性ヨウ素を体内に取り込んで事故発生から被曝量が 100 ミリ・シーベルトを超える危険性があること判明（甲状腺ガンを予防するために安定ヨウ素剤を服用する基準）／安全委・斑目春樹委員長ら「非常に厳しい条件を想定した。直ちに対策を取る必要はない」（3・24A）
⇒3・23 都水道から「基準 2 倍のヨウ素検出」（都水道局、発表）－金町浄水場で採取した水道水から、乳児（0 歳児）の飲料に関する国の基準の約 2 倍に当る 1 キログラム当たり 210 ベクレルの放射性ヨウ素を検出／都、水道水『乳児は控えて』と呼びかけ－東京 23 区、多摩 5 市に（3・24A）

3・23

菅首相、福島産野菜「摂取制限」指示－福島県産の小松菜、キャベツ、ブロッコリーなどから食品衛生法の暫定規則値を超える放射性物質が検出されたとして、当分の間の「摂取制限を住民に呼びかけるよう」福島県知事らに指示－原子力災害対策特別措置法に基づく初めての措置－福島産のカブ、茨城県産のパセリと原乳についても、当分の間「出荷を控えるよう」両県知事ら指示／枝野官房長官（記者会見）「念のため」と釈明－「現時点で一時的に食用に供されたとしても健康に害を与えるものではない、しかし、こうした状況から今後長期にわたって継続することが残念ながら想定され、念のため早い段階から出荷を差し控えていただき、かつできるだけ摂取しないようにしてもらおうことが望ましい」←厚労省、緊急時モニタリング検査結果公表（3・23A夕）

⇒3・23 「土から高濃度セシウム－原発から 40 キロの飯館村」（文科省発表）－国が定めた放射線管理区域の基準値の 4 倍相当（3・23A夕）

⇒3・23 震災被害 16～25 兆円（政府計算）－道路、港湾、住宅、生産設備などの直接的被害額が 16～25 兆円との試算－95 年阪神大震災 9.6 兆円（政府試算）（3・23A夕）

→3・23 A 夕 「野菜、風評被害に懸念－長引けば品薄も－福島『痛恨の極み』－茨城『補償約束を』」「野菜農家『もうお手上げの状態』、酪農家『生

計の見通し立たない』／Mタ「日本の原発は『コスト優先』—米外交官、06年に疑念—ウイキリークス暴露」／Yタ「変わり果てた港—気仙沼沖1800キロ、漁中に悲報—漁労長、姉失い涙」 「宮城県漁業壊滅状態」 「7カ国大使館、西日本に機能移転—スイスやドイツ『一時的な措置』」
 →3・24Yタ「放射性物質の拡散試算—原子力安全委、『屋内に12日間』の場合—『誤解招く』政府、公表遅らす」 「都の浄水場放射性物質—乳児引用基準の2倍」／A「屋内退避募る不安、20～30キロ圏放射能リスクは—2週間で『避難レベル』、土壌汚染も深刻—長期移住、想定外」 「原発計画再考相次ぐ—浜岡6号機、着工延期」 「とり残された2万人—南相馬の屋内退避、人も食糧も来なくなった」 「津波被害田畑2万ヘクタール、岩手・宮城・福島—塩分、耕作に影響」

3・24

各紙社説

A「ヨウ素検出—あかちゃんを守ろう」／「衆院定数判決—格差是正し政治に信頼を」／編集委員・竹内敬二「不安解消へ『汚染地図』を」
 M「放射能汚染—健康影響を丁寧に示せ」／「衆院定数格差—速やかに『2倍未満』に」
 Y「電力不足—節電に努め長期化に備えよ」／「衆院の1票に格差—『別枠方式』の廃止迫る最高裁」
 N「水・食品への不安鎮める丁寧な説明を」／『最高裁が迫る『別枠』の廃止』
 H「いっせいで方選挙開始へ—未曾有の大災害に立ち向かい」

衆院格差「違憲状態」大法廷判決と統一地方選告示

3・23

最高裁大法廷、衆院格差「違憲状態」判決—09・8衆院選における最大2.30倍の1票「格差」につき、選挙無効確認9件の訴訟で—「1人別枠方式」につき「小選挙区制導入時は激変緩和措置として合理性があったが、新制

度初の衆院選から10年が経過しており、合理性は失われた」「2.30倍の格差の主要因は1人別枠方式にある」とし「1人別枠方式と、これに基づく区割りは投票価値の平等に反する状態に至った」、但し、07年大法廷判決で1人別枠方式を合憲としたことから「合理的期間内には是正されなかったとは言えず、違憲とまでは言えない」とし、選挙を有効とした(3・24M)―15人のうち、古田佑紀氏は合憲論、田原睦夫、宮川光治両氏は違憲論、他の12氏「違憲状態」論(3・24A)

3・24 イレッサ薬害訴訟、国の責任認める―東京地裁(松並重雄裁判長)、肺ガン治療薬「イレッサ」の副作用で死亡した患者3人の遺族が提起した国と販売元「アストラゼネカ」(大阪市)に計7700万円の損害賠償を請求した事件で、国と会社に計1760万円を命ずる判決(3・24A)

3・24 統一地方選―12知事選告示→4・10投開票

<東京>

渡辺美樹氏(ワタミ会長)

石原慎太郎氏(東京都知事)

東国原英夫氏(元宮崎県知事)

小池 晃氏(元参院議員)ら

→3・24A夕「統一地方選異例の自粛ムード、12知事選静かな告示」/M

夕「『原発』『防災』も争点」/Y夕「防災・危機管理争点に」

→3・25A「知事選も原発焦点、統一選スタート―公約取り下げ・延期、容認の原職―『安全の根拠は』反対の新顔」/M「6県で相乗り、12知事選―計48市町村で延期、首長・議員選―民主『禁止』は形骸化―与野党『自粛ムード』」

作業員被曝と東電のデータ隠し

3・24

被災者数 (3・25A)

○死亡 9,811人 (宮城5,889、岩手3,025、福島839・)

○安否不明 19,806人 (宮城8,936、福島5,997、岩手4,869・)

○避難 246,993人 (宮城89,608、福島85,085、岩手42,837・)

⇒3・24 作業員3人被曝—福島第1原発3号機でケーブルの敷設の男性作業員3人が被曝 (いずれも、東電の協力会社作業員)、うち2人は放射線障害で市内病院へ搬送 (3・25A)

→3・25A 「福島第一、レベル6相当—スリーマイル超す、現場の放射能推定」「原発安定『最低1ヵ月』—冷温停止へ注水継続、1号機制御—進—退」「13 火山の活動活発化—周辺に地震、噴火の兆候はなし」／Y 「放射性物質、千葉・茨城の浄水場でも—乳児規制値超す、東京は下回り解除」

「汚染水、靴の中に—装着アラーム作動か不明、作業員被曝—水の表面400ミリ・シーベルト—放射線管理員同行せず、線量上限20ミリ・シーベルトと想定」「『地元へ戻りたい』7割、被災者100人アンケート—住宅メドなし7割、仮設・公営強い要望—集団移転希望は4割」

→3・25 各紙社説

A 「放射能と避難—予測生かし、きめ細やかに」／「日本経済の試練再生へ、総力で挑もう」

M 「被災者支援—避難先でのケアが必要」／「統一地方選始まる選挙カー—抜きで論戦を」

Y 「統一選スタート地方選の課題をしっかりと論ぜよ」

N 「復興予算の財源は『ばらまき』をまず削れ」／「震災下の地方選だからこそ」

T 「都知事選告示—どうする東京のかたち」

H 「食糧基地の震災—安心、安全な供給へ対策急げ」

震災・大津波・放射能、そして厳しい寒さ

3・25

被災者数 (3・26A)

- 死亡 10,102 人 (宮城 6,097、岩手 3092、福島 855··)
- 安否不明 19,752 人 (宮城 8,936、福島 5,934、岩手 4,878··)
- 避難 246,466 人 (宮城 86,927、福島 86,308、岩手 43,728··)
- 建物損壊 146,504 戸 (茨城 5 万 941、栃木 3 万 256、千葉 1 万 4504、群馬 1 万 3206、岩手 1 万 2930、福島 1 万 981、宮城 1 万 441··) (3・26Y)

⇒3・25 原発北西 30 キロの放射線量「年間限度超す」—文科省、福島原発から北西約 30 キロ地点で 24 時間の累積放射線量で最大約 1.4 ミリシーベルトに上がったとの測定結果発表—防御なしで屋外にいた場合、一般日本人の人工被曝年間限度 (1 ミリシーベルト) を超える放射線を 1 日で受ける計算／内閣府原子力安全委員会、助言—半径 20~30 キロ圏の住民の「自主的避難望ましい」との助言／枝野官房長官 (記者会見)、自主避難を要請「住民の自主避難を促進するとともに、政府の避難指示が出た場合には直ちに避難を実施するようお願いしたい」—対象地域 9 市町村、1 万 1000 人位が居住／菅首相 (記者会見)、屋内退避指示につき「原発の状況、放射性物質の予測、モニタリングの数値などで原子力安全委員を中心に専門家の判断を頂いて避難指示を出している。専門家の判断を尊重している」 (3・26M)

→3・26M「原発北西 30 キロ—1 日 1.4 ミリシーベルト、年間限度超す—屋内退避圏、自主避難促す—放射線量、低下傾向、安全委」「3 人被ばく—水は原子炉からか、核燃料の可能性」「原発制御道のり遠く—急がれる冷却機能回復—被ばく限度『引き上げを』、国際防護委が日本に勧告」「『動けない』住民怒り、屋内避難に『自主避難』勧告、『祖母も牛もいるのに』—対象 1 万 1000 人、自治体『無責任』—放射性物質拡散偏る・政府指示あ

いまい、累積被ばく 1 日 1 年分」 「14 原発浸水『想定外』東電除く 9 社一
 津波対策、震災後に修正」 / T 「『レベル 6』見方広がる、海外専門家一漏
 えい量『スリーマイル超す』 / サ 「EU 首脳発表一域内の全原発委全検査
 へ」 / Y 「主要配管の真下に、高濃度汚染水、『炉の、水漏れ可能性』一保
 安院、ポンプ・弁トラブルか一汚染水位・状況調査が必要、拡大なら冷却
 に支障」 「『自主避難今なぜ、原発 30 キロ圏一『患者動かせない』『牛に餌
 やりたい』、とどまる住民困惑』 「ようやく省庁総動員、国の政策課題一復
 興『政治主導』に限界」 「選挙なんてできない、被災自治体『半年延期し
 ても…』一名簿流出・多数の避難・不明者一総務省『早期の実施を』 「夏
 の大停電どう防ぐ一『夏時間』『値上げ』案次々、ピーク時の抑制がカギ」
 「部品工場被災全国に影一東北に立地、高いシェア一『機械直したい。で
 も技術者がこられない』車メーカー現地支援」 「自動車、今月生産半額か
 一前年比、部品輸入検討動き」 「園児・生徒 184 人死亡一宮城・岩手・福
 島、安否不明 885 人一圏外避難者 3 万 1 千人」 / N 「海外投資家、日本株
 買い一長期投資で収益狙う、日本企業の地力に着目」 「孤立の島、遠い支
 援一東日本大震災 2 週間、定期船再開待ちわび」 / H 「電源喪失による最
 悪事態を警告、吉井衆院議員繰り返し追及一水素爆発の危険も指摘、『想
 定外』政府の言い訳通用しない一『安全設計』と保安院強弁」 「福島原爆
 事故でメディア注目一党県委『津波で苛酷事故』07 年」

3・26

各紙社説

A 「作業員被曝一放射線と闘う人の安全を」 / 「被災地支援一情報をくまなく届けたい」

M 「大震災 2 週間一原発の長期戦に覚悟を」 / 「被災者支援の正念場だ」

Y 「震災 2 週間一災害弱者への支援が最優先だ」 / 「災害の国際協力一アジア太平洋諸侯と連携密に」

N 「原発想起復旧に怠れぬ現場の安全確保」 / 「長期化にらむ周辺避難態勢を」

T「作業員被ばく一安全確保に万全を期せ」／「津波・地震一他の原発は大丈夫か」

サ「役場の債権一全国から応援職員求めよ」／「電力不足長期化一電源確保に知恵と工夫を」

H「薬害イレッサ訴訟判決一命と安全を守る国の責任果たせ」

→3・26 A 夕「東電、作業員に汚染伝えず一別建屋で6日前検出一3号機『被曝防げた可能性』」「安全管理ずさん』一汚染伝えぬ東電批判」／Y 夕「海水に1250倍放射性物質一福島第一放水口付近、保安院『拡散、薄まる』」
／M 夕「EU、全原子炉を検査一14カ国143基、仏『不合格なら閉鎖』」

3・26

被災者数 (3・27A)

○死亡 10,489人(宮城6,333、岩手3,152、福島946··)

○安否不明 19,429人(宮城8,936、福島5,757、岩手4,732··)

○建物損壊 14万4194戸(茨城4万7662、栃木3万625、千葉1万4504、群馬1万3206、岩手1万2954、宮城1万1016、宮城1万1016、福島1万981··)

○避難 24万3534人(福島8万6313、宮城8万5111、岩手4万3879··)

○避難所 1964カ所(宮城633、岩手383、福島309、山梨106··)

(注) 負傷者、建物、避難所は警察庁まとめ(3・27Y、H)

⇒3・26 東電、作業員被曝で謝罪一3号機のタービン建屋地下の水たまりの高い放射線量を知っていたら、今回の被ばくは防げた」(3・27H)

／枝野官房長官(記者会見)、「東電側に情報を出させることが(政府の)なよりの役割だと思う。さらに厳しく指導していかなければならないとの認識を持っている」(3・27T)

→3・27 A 「集団疎開ごめんね一気兼ね・不安、参加は少数一岩手、『地域社会の分断防げ』」「汚染水の排水難航、福島第一」「燃料冷却用ポンプの電源復旧、被曝作業員何をしていた一原子炉につながる復水器へ、1号機

地下水どうする—海水に基準超す放射能、魚への心配、少なく」「被曝限度量の緩和提案—国際機関、移住回避促す」「水・塩・放射能、嘆く農地—「400の営みすべて流された、仙台—『種まこうと思ったら』福島」「日本から部品こない—世界の自動車産業に打撃、技術移転や代替狙う動き—他産業も計画立たず」「自衛隊10万人奮闘、捜索人も重要書類も—派遣2週間、疲労は極限、部隊交代が課題—『ニーズ掘り起こせ』—米軍も支援、将校ら調整」「原発停止求め—ドイツでデモ、4都市で『25万人』」

「原発復旧の現場悲鳴、社員が報告メール、福島第二—両親不明・過酷労働—もう限界／地震は天災、でも放射能汚染は—『この防護服、大丈夫か』作業員ら被曝訴え、福島第一」「故郷は安全は—『去るも地獄、残るも地獄だ』、宮城・南三陸町で説明会」「自主避難要請、住民は—『補償どうなる』、『1,2年では戻れぬ』『牛残せぬ』」「戸籍を埋葬を—住民データも水没、庁舎なき役所奮闘、陸前高田市—身分証明書を手作り、女川町・南三陸町」「海でつながっている—全国の漁師、気仙沼へ物資—同じマグロ基地三崎から、津々浦々の港『少しでも力に』」

→3・27M高齢者施設死者・不明436人、東日本大震災—3県18施設海辺立地逃げ遅れ」「累積放射線2.8ミリシーベルトに—原発北西30キロ、依然高い状態」「原発制御長期戦に福島第一—放射能汚染作業阻む、『1ヵ月かかる』見方も」「1100年前の教訓軽視—09年審議会指摘、東電『情報ない』(『貞観地震』でも大津波数キロ浸水—約1100年前の「貞観地震」約1000人水死—同規模津波が450~800年程度の間隔で繰返された可能性)

「スリーマイルから祈り—『情報不足無力感に負けないで』あす事故から32年」(スリーマイル原発事故79・3・28炉心溶融—放射能除去に12年間、9.7億ドル(約790億円)を要した)

「放射線量検査依頼が殺到、食品からネジ、おむつまで—輸出先、『汚染なし』証明求め」

→3・37Y「核燃料の損傷進行か、福島第一—放射線量、大気中では増え

ず」「水の危険性東電伝えずー3号機、被曝の作業員に」「汚染水が作業阻む、福島第一ー冷却回復が最優先、燃料破損拡大阻止へー排水作業がカギ」

『『石棺』終わらぬ後始末、チェルビリ来年25年ー菜の花で農業再生、
『経験、フクシマと分かち合いたい』』（1986・4・26 旧ソ連のチェルノブ
ィリ原発4号機が炉心溶融して爆発）ー発電所封じ込めに15億ユーロ（約
1700億円）が必要ー現在も半径30キロの立ち入り制限、原則として居住
を認められないー事故後500万hの土地が耕作不能、または制限ー300キ
ロ地点で牛乳から高濃度の放射能ー死者は将来分含め約4000人と国連試
算』

→3・27H「東電、作業員に危険伝えずー『6日前に知っていた』『被ばく
防げた』と謝罪、福島原発」

→3・27サ「米軍命賭けトモダチ作戦ー『日本人を助けること』『ここで物
資降ろせ』ー精鋭部隊パラシュート降下、かれきのせん第空港迅速復旧ー
同盟力発揮の真価」（支援国米国ほか29カ国）「予備自衛官初の活動ー36
人『全力で助ける』『あいまい表現不安増幅ー予断許さず／念のため／で
きるだけー専門家『政府はデータで説明を』」

3・27

各紙社説

A「電力不足ー計画節電へ政府は動け」／「みずほダウンーそれでもメガ
バンクか」

M「原子力安全委ー情報伝達もっと積極的に」／「自衛隊10万人ーより
きめ細かな支援を」

Y「原発ー進ー退ー被害を最小限に食い止めよ」／「被災地の教育ー一歩
ずつ学校の再開目指そう」

N「電力需要を分散する夏場対策を早く」／「きめ細かな広域避難支援を」

T「復興の鍵は民間だー週のはじめに考える」

サ「ロシア機接近ー外相はなぜ抗議せぬのか」／「被災地で卒業式ー復興
の春へ希望の一步を」

H 「大震災から半月一規模応じた救護対策緊急に」

福島第1原発—「安楽死」(廃炉) しかないのでは

3・27

被災者数 (3・28A)

- 死亡 10,804 人 (宮城 6,565、岩手 3,213、福島 968··)
- 安否不明 19,036 人 (宮城 8,936、福島 5,414、岩手 4,682··)
- 避難 243,177 人 (福島 89,130、宮城 83,107、岩手 42,923··)
- 建物損壊 14万4228戸 (茨城 4万7662、栃木 3万537、千葉 1万4504
群馬 1万3206、岩手 1万2954、宮城 1万1138、
福島 1万981··)

(注) 建物は警察庁まとめ、死者は同庁発表と同じ—3・28Y)

⇒3・27 汚染水 1000 ミリシーベルト超、「2号機で被曝上限」—経産省安全・保安院と東京電力発表—2号機タービン建屋地下の水表面から毎時1000 ミリシーベルト以上の放射線量を計測 (3・28A)

→3・28M 「福島第1原発、2号機の水 1000 ミリシーベルト超—高い放射線、作業を中断」 「小規模施設、自宅の被災者—届かぬ物資、滞る「避難所の先」 「広がる原発見直し、福島第1事故—EU 検査強化で合意、欧州—ドイツで 25 万人デモ、チェルノブイリ教訓—米国『安全性検証』 急ぐ、昨年から着工容認、建設凍結せず—新興国、中国新規停止—イスラエル、ベネズエラ、計画断念」 / A 「逆風、世界の原発—独、25 万人反対デモ—仏ロ米、安全強化に力—建設推進の中印、様子見」 / Y 「『トモダチ作戦』 米軍総力—地震対応で 1 万 6000 人、12 米同盟さらに深化」 / N 「原子炉冷却、長期戦に—復旧阻む『3つの壁』—汚染水で装置使えず / 出所不明、排水が難航 / 作業員の確保課題」

→3・28 各紙社説

- A 「暮らしの復興―被災者と故郷の明日を」／「イレッサ判決―欠陥情報が広げた被害」
- M 「復興への政府体制―機動的な司令塔整備を」／「埋葬と哀悼―遺族の思いを大切に」
- Y 「製造業の被災―生産再開急ぎ復興に弾みを」／「ボランティア―善意が生きる場を作りたい」
- N 「日本製品の信頼を揺るがせないために」／「『普段通り』も大切にしたい」
- T 「労災派遣をより本格的に―自衛隊と大震災」
- サ 「日米トモダチ作戦―経験を同盟深化に生かせ」／「『違憲状態』判決―民意反映の仕組み再考を」
- H 「米軍『思いやり』予算―大震災のさなかにやることか」